



書道家
永田 紗戀 様

「今までの土壌があって、小さな芽が出ていくイメージです」
6冊目の表紙は「芽生え」とのこと。清々しい表情でお話して頂いた印象そのままに自然に筆が動きました。新たな才能が新たな道を切り開くイメージで、と昨年「新進」と書いたことを思い出しながら、その才能が「芽生え」と語っている、成長の感動を感じます。それは丁寧に土壌を作った上に芽吹いた、確かなCSR広報室の人と人との信頼ではないのかと想いを巡らします。毎年このレポートには、アデランス様の一年の確実な進化に刺激を受けます。同時に毎年、変わらない部分がしっかりと掲載され続けていることに、小さな芽を見つけた時のような心の温かさを、毎年私は想うのです。



株式会社アデランスは、2018年をもって50周年を迎えました。世界のブランド「アデランス」を目指し、毛髪、美容、健康のウェルネス産業を通じて夢と感動を提供しつづけていきます。

CSRコミュニケーションレポート 2018



外部団体および企業とのコラボレーション



JHD&C
Japan Hair
Donation & Charity
Nonprofit Organization

団体の活動に賛同し、「愛のチャリティ」とのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。



日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。

毛髪診断士は、公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。



経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を实践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



**がん患者の生活をサポート
VOL-NEXT**

患者様が安心して、医療用ウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT社による医療接遇講習を実施しています。



「One World プロジェクト」(協力/公益財団法人日本対がん協会、後援/J-CAN)の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



さくら並木ネットワーク

2011年の東日本大震災・大津波の到達地に桜を植え、津波被害を伝承する桜並木を植樹し、東北地方の復興支援に協力しています。



2014年4月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった戦略的CSR」を積極的に推し進めています。

株式会社 **アデランス**

グローバルCSR広報室

〒160-8429

東京都新宿区新宿一丁目6番3号

TEL: 03-3350-3268

E-mail: pr@aderans.com

URL: <https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>

2018年9月発行

笑顔のために
これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

株式会社 **アデランス**



株式会社アデランス
代表取締役会長 創業者
根本 信男

当社は、2018年をもって創立50周年を迎えました。
男性用ウィッグ専門店として日本で創業した当社は、現在では、国内だけでなく、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの海外でも事業を行う、男性用・女性用ウィッグ、毛髪移植、ヘアシステムなどのトータルヘアソリューション企業となりました。
今日があるのは、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思い、お客様に喜んでいただく商品作り、お客様へのおもてなしの心という、当社の創業精神を大切にしてきたからだと思えます。
その精神を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。
「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。

「グッドカンパニーの実現」を経営ビジョンに掲げ、当社はさらなる成長を目指しております。
創立50周年を迎えたのを機に、経営理念の一部を新たにし、毛髪・美容・健康のウェルネス産業として事業展開を強化していきます。
その目標の実現において、一番重要と考えているのが「人財の力」です。社員一人ひとりがアデランスグループの主役として、自分を磨きレベルをあげることが、今後の成長の源となります。
アデランスの活動地域は、現在19の国と地域となり、グローバルに広がっています。それにともない、企業としての社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。
国内外で約6,700名もの社員が、自らの社会的責任を自覚し、さまざまな分野で活躍できるよう更にダイバーシティを強化し、CSR意識を高め、より信頼性の高いグッドカンパニーを目指してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役社長 グループCEO
津村 佳宏

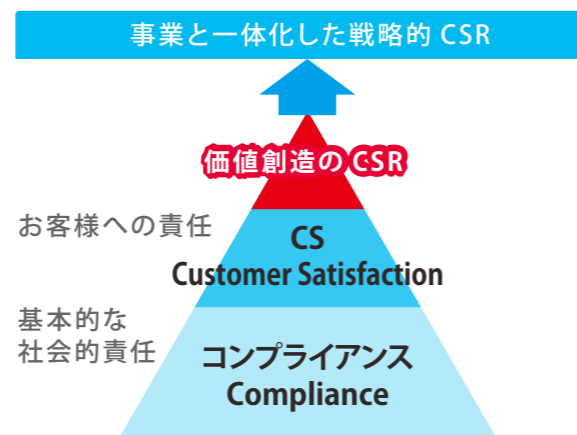
経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は
毛髪・美容・健康のウェルネス産業を通じて
世界の人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術と知識」
「心からのおもてなし」

アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で永続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。



世界19の国と地域、64社のネットワークでグローバルに事業を展開しています。

北米 アメリカ カナダ	ヨーロッパ フランス ドイツ オランダ ベルギー イギリス スウェーデン ノルウェー デンマーク スペイン	アジア タイ フィリピン ラオス 台湾 シンガポール 中国 香港	日本
店舗数等 (2018年5月末現在)			
国内 529店			
アデランス			
レディスアデランス 166店			
フォンテーヌ 240店			
病院内ヘアサロン 30店			
その他 93店			
国外 332店			
地域別社員数			
国内 2,754名			
国外 3,907名			
計 6,661名			

5つのブランドを核に、ウィッグの製造販売、育毛・増毛サービス、ヘアトランスプラント事業など、高品質な商品・サービスを展開しています。

男性向けブランド ADERANS 男性向けにオーダーメイド・ウィッグ、増毛商品、育毛サービスを提供しているブランドです。	女性向けブランド FONTAINE レディスアデランス 女性向けにオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグ、ヘアケア&スカルプケアを提供しているブランドです。	毛髪移植 BOSLEY 世界25万例以上に及ぶ治療実績を誇る、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。	海外(ヘアシステム、ウィッグ) HAIRCLUB 米国で男性向け、女性向けにヘアシステム、育毛サービスを提供しているブランドです。 先頭 セントリー・コレクションは、医療用ウィッグを中心に事業展開している、欧州におけるアデランスグループの統一ブランドです。
---	--	--	--

アデランスの50年



当社は、1968年9月に男性用オーダーメイドとアフターサービスのウィッグ専門店として創業しました。

創業以来、「お客様の髪を悩ませたい」という思いで事業に取り組み、2018年に50周年を迎えました。

この50年の間に、業界の常識を打ち破る画期的なアイデアで、革新的な商品やサービスを提供し続け、世界に類を見ない総合毛髪関連企業へと成長いたしました。

日本で創業者3人によって始まった当社は、今では世界19の国と地域、64社のグループ会社（2018年8月末現在）、6,661名の社員（2018年5月末現在）が活躍する規模となりました。

これからも、すべてのお客様の笑顔のために、毛髪だけでなく美容や健康の悩みを解決することを当社の使命として、次の100周年に向けて歩んでまいります。

100周年に向けた新経営理念

50周年を迎えるにあたり経営理念を見直しました。髪を良くすること。それは肌や皮膚を良くする、あるいは健康を維持することです。今後は、「毛髪」「美容」「健康」というテーマをさらに深めていきます。また、「最高の技術」に「知識」という言葉を新たに加えました。

経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は
毛髪・美容・健康のウェルネス産業を通じて
世界の人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術と知識」
「心からのおもてなし」

長年の毛髪研究の延長から生まれた健康に関する技術を活かし、毛髪だけでなく、美容や健康領域にも積極的に取り組んでまいります。

商品の魅力をさらに引き出し、「最高の商品」を生み出すためには優れた技術と知識が欠かせません。商品知識や産学連携や研究パートナーとの共同研究によって得られたエビデンスを、社員がしっかりと知識として持ち、お客様の笑顔に変えていきます。

時代に挑戦しつづけてきた50年

アデランスの社名の由来

社名の「アデランス」は、創業者・根本の知人である横浜市立大学 故・早瀬利雄教授に名付けていただきました。その由来は「接着」「くっつく」「くっついている」を意味するフランス語のアドヒアランス Adhérence です。これまでの「かぶる」イメージとは違う、「つける」ウィッグという意味と、アデランスという会社が早く社会にくっつく＝認知されるという両方の意味が込められました。また、「ン=運」が入っているという縁起の良い名前でもありました。

Adhérence

従来の「かぶる」とは違う、「つける」ウィッグ会社が早く社会にくっつく＝認知される

パパ、アデランスにしてよかったね

創業当初から、雑誌、新聞やテレビの広告を積極的に活用し、「アデランスのブランド化」を進めてきました。南たかしさんをイメージキャラクターに起用した『パパ、アデランスにしてよかったね』CMは反響を呼び、「男性用ウィッグ＝アデランス」と世間に認知されるようになりました。



1969年 アデランス初期の広告



1972年～ テレビ広告

ウィッグの装着方法に革命を起こした「ストッパー」の開発

創業当時のウィッグは、装着に接着剤を使用していたため、スムーズな取り外しができませんでした。「装着や取り外しが簡単になればお客様が喜ばれるかもしれない」と思い、1975年に自髪でウィッグを固定させる独自のヘアピンを開発しました。これにより、ウィッグの着脱をわずか15秒で可能にし、瞬く間に世間に広がりました。



独自開発したワンタッチストッパー

人工毛髪の新たな挑戦 人工毛髪による人毛使用率の削減

もともとウィッグには人毛が使われていました。当社は、毛髪の安定調達および社会的課題の観点から、1983年に人工毛髪の研究を始めました。人毛に劣らない人工毛髪の開発に成功し、1991年に「サイバーヘア」、2006年に「バイタルヘア®」（特許第5127443号）などの商品として提供しています。現在も、理想の人工毛髪の研究を進めています。



天然毛髪



一般的人工毛髪 (合成繊維)



サイバーヘア



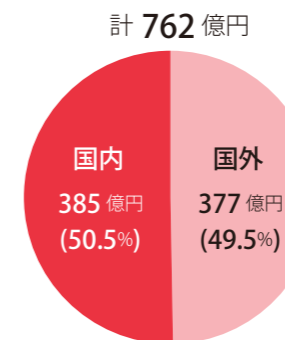
バイタルヘア® ナチュラルヘア

世界のブランド アデランスに向けて

現在、アデランスグループは、日本だけでなく、世界19の国と地域で事業を展開しています。

「世界のブランド アデランス」に向けて、世界中の人々に夢と感動を提供し、笑顔と心豊かな暮らしに貢献できるよう、進めてまいります。

売上高 (2018年2月期)



店舗数 (2018年5月末現在)

国内店舗数	
アデランス/レディスアデランス	166店舗
フォンテーヌ	187店舗
スワニー by フォンテーヌ	41店舗
ルネ オブ パリス by フォンテーヌ	10店舗
アニーダブレー	2店舗
病院内ヘアサロン	30店舗
ハイネット社	93店舗
国外店舗数	
アデランス・ヘア・グッズ社	1店舗
ボズレー社	69店舗 ※
ヘアクラブ社	119店舗
アデランス・フランス社	32店舗
アデランス・ドイツ社	26店舗
アデランス・ベネルクス社	15店舗
アデランス・ユーケー社	7店舗
アデランス・スウェーデン社	15店舗
アデランス・トータルヘアソリューション・イベリア社	2店舗
アデランス台湾社	14店舗
アデランス・シンガポール社	6店舗
アデランス上海社	25店舗
アデランス香港社	1店舗

※ 相談室 42 店舗を含む

「第1回世界ウィッグ技術競技大会」を開催

2018年に創立50周年を迎え、「第1回世界ウィッグ技術競技大会」を初めて開催しました。

世界19の国と地域62社の技術者の中から、世界各国で予選会を行い勝ち抜いたトップのヘアデザイナーを集め、その技術力を競い、「オーダーメイドメンズ部門」「オーダーメイドレディース部門」「レディメイド部門」それぞれの部門で優勝者を決定しました。

経営理念である「最高の技術と知識」を体現すべく、50周年を機にアデランスグループ一丸となって、さらなる技術力向上に努めてまいります。



社会・地域貢献

7つの中核主題

組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行
環境 消費者課題 コミュニティへの参画及び発展

アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く、笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組んでいます。



愛のチャリティ 1978年から続く アデランスのCSR活動の原点

年度	贈呈数
2013年	172枚
2014年	265枚
2015年	343枚
2016年	336枚
2017年	315枚

当社は、1978年から「愛のチャリティ」を実施しています。これは「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さま(現在は4歳から15歳までが対象となります。)が笑顔を取り戻していただけるよう、ウィッグをプレゼントするという活動です。

当初はクリスマスの時期に限定していた活動でしたが、2012年9月から通年のものとなりました。

2014年3月からは、従来のオーダーメイド・ウィッグだけでなく、レディメイド・ウィッグ(既製品)も、プレゼント対象に加わりました。



プレゼント先のご家族からいただいたお手紙



1980年のポスター

国外での取り組み



USA

Hair Club For Kids

髪で悩むお子さま(6歳から17歳)にウィッグをプレゼントする活動を、1995年から行っています。



United Kingdom

The Little Princess Trust

英国女王が認めた唯一のチャリティ団体「The Little Princess Trust」を2011年からサポートしています。



Benelux

Hair-Wish-4-Care

18歳以下の脱毛されたお子さまに人毛ウィッグをプレゼントする団体「Hair-Wish-4-Care」を2007年より支援しています。

海外での取り組みの詳細は本誌 21-22 ページをご覧ください。

泣いているお子さまを笑顔に変えるウィッグの力

福島県立医科大学附属病院は、県内で唯一の小児腫瘍内科があり、県内外から多くの患者様を受け入れています。そのため、投薬や放射線治療の副作用による脱毛で悩まれるお子さまが、多く来店されています。

退院後、まだ髪が生えそわないうちに学校へ通わなければならない、周囲の目が気になり登校を嫌がってしまうお子さまも少なくありません。しかし、泣きながらご相談にいらしたお子さまもウィッグを着けた瞬間、表情が笑顔に変わり、ご家族や我々も笑顔になっ

ていく、ウィッグを通じてこんなにも人の気持ちを変えられることが出来るのかと、この活動によって改めて実感したと同時に自分自身もやりがいを感じる瞬間でした。

愛のチャリティが40年にもわたり継続しているということは、アデランスの得意とする分野での活動が社会から必要とされ、社内でも受け入れられている結果だと思えます。

今後もこのような活動が社会全体に広がっていくよう誇りを持って取り組んでまいります。



株式会社アデランス
福島医大店 店長
金子 一成

活動トピックス

子どもたちの笑顔のために

NPO法人JHD&Cへの協力

病気などでウィッグを必要とするお子さまに無償提供している、NPO法人JHD&C(ジャーダック)への活動に賛同し、2015年3月から全国のアデランス店舗を頭のサイズの計測やウィッグのお渡しの間として提供しています。2016年4月からはウィッグの製作の協力を開始しています。



親子イベントへの協力

JHD&C親子イベントに協力し、ウィッグ試着体験用のウィッグ提供や試着サポートを実施しました。



ヘアドネーション支援自動販売機の設置

「ヘアドネーション支援自動販売機」は、JHD&Cとコカ・コーラ ボトラーズ ジャパン株式会社が連携した自動販売機で、売り上げの一部が寄付され、ウィッグの製作に役立てられる仕組みになっています。2018年8月に、当自販機をAD本社ビルに設置しました。



十勝毎日新聞イベント「まちマイNEWS西帯広編」に協力

2014年に、帯広三条高校放送局が、髪の毛にまつわるNPO団体と髪の毛の提供者(ドナー)の「絆」を中心に描いた作品『髪の手紙』を制作し、その一環で当社は取材を受けました。その後、『髪の手紙』が「第61回NHK杯全国学校放送コンテスト」の全国大会決勝で優秀賞を受賞しました。

この『髪の手紙』の作品の取材に協力したことをきっかけに、当社は十勝毎日新聞社、JHD&Cと知り合うこととなり、JHD&Cへの協力が始まりました。

当社と帯広三条高校放送局の関わりを取材していただいた十勝毎日新聞社が、『十勝から広がる髪の手紙』がテーマのイベントを2018年4月に開催され、当社も参加しました。

イベントでは、帯広三条高校放送局による『髪の手紙』の上映、医療用ウィッグ・愛のチャリティパネルなどの展示、パネルディスカッションを実施しました。イベントの終わりには、JHD&C 渡辺代表理事からのメッセージが読み上げられるなど、ヘアドネーションの認知向上につながる機会となりました。



Thailand



給食・教科書代を寄付

ワールド・クオリティ社は、工場の近くにある幼稚園、小学校に、給食および教科書・参考書の費用の支援を行っています。

クリスマスサンタ

クリスマスの時期に、自宅に帰れないお子さまのために病院を訪問し、プレゼントをお渡しする「クリスマス・サンタ企画」を30年以上行っています。2017年は27箇所の病院で実施しました。



がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポート

一般社団法人がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポートを開始しました。

がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポートを開始しました。がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポートを開始しました。

がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポートを開始しました。がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポートを開始しました。



参加者が明るい笑顔に!

アデランス様にご協賛を頂いているヘルスケアアカデミーでは、がん治療後にがん患者が抱える問題に焦点を当て、改善に役立つ講義を毎月行っております。今年の2月は、アデランスのCS教育部小林様に、髪やウィッグの悩みについての講義をして頂きました。脱毛を「隠すために使うウィッグ」ではなく、「美しく見せるためのウィッグ」に関心を寄せること自体が、心のセルフケアになり、生きる喜びや自信となっていくことを目の当たりにしました。参加された皆さんが、明るい笑顔で帰られる姿に、毎回、心から幸せな気持ちになります。いつも暖かく応援して頂き、心より感謝申し上げます。



一般社団法人がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」代表理事 広瀬 眞奈美 様

アデランスUK社のウィッグアンバサダー ジョアンナ・ロウセル氏来日イベントを開催

アロペシア（脱毛症）であり、元英国女子自転車競技金メダリストのジョアンナ・ロウセル氏に、アデランスUK社のウィッグ・アンバサダーとして活動いただいています。

今回、ジョアンナ・ロウセル氏の初来日を記念したイベントを開催しました。イベントでは第1部「円形脱毛症に関するプレスセミナー」、第2部「アデランスのグローバルCSR活動に関する説明会」を行いました。

ロウセル氏の他に、JHD&C 渡辺貴一代表理事、当社からは代表取締役社長 津村佳宏、執行役員グローバルCSR 広報室 箕輪睦夫、アデランス・ヨーロッパ社リン・ハリス顧問（前アデランスUK 社社長）が参加し、イベント出席者に、円形脱毛症への更なる理解を深めていただき、また当社のグローバルかつ永続的で健全なCSR活動についても知っていただく機会となりました。ロウセル氏からは、「自転車競技が私の人生に自信を与えてくれて、ウィッグが私自身を取り戻させてくれた。」という力強いメッセージをいただきました。



ジョアンナ・ロウセル氏 「自転車競技が私の人生に自信を与えてくれて、ウィッグが私自身を取り戻させてくれた。」

One World プロジェクト

東日本大震災支援 「One Worldプロジェクト」でウィッグお手入れ支援サービス

東日本大震災で被災されたがん患者様向けに、ウィッグのお手入れ支援サービスを継続しています。2012年7月からスタートし、ウィッグのお手入れ等を通常価格の半額で提供しています。継続のご要望が多く寄せられたため、2019年6月末まで延長します。

がん患者様をサポートする国内外での取り組み

外部組織との商品化コラボレーション

・スカルプケアローション 「HairRepro MEDI α」

・ライフネット生命が提供する「がん生活サポートサービス」でのアピラランスケアのサポート

・女性のがん治療と仕事の両立を支援する医療用ウィッグ「TEAM RaFra」

商品化の詳細は本誌 12 ページをご覧ください。



医療用ウィッグのJIS規格化

2015年に医療用ウィッグの世界初の国家規格が制定されました。JIS規格化にあたり、当社は業界のリーダーとして外部と連携しながら中心的な役割を担ってきました。



USA 支援団体へのウィッグ寄贈

アデランス・ヘア・グッズ社では、ウィッグを購入することができないがん患者様を支援する非営利慈善団体をサポートする活動を約10年間継続的に行っています。2016年枚では14団体に約4,000枚のウィッグを提供しました。

米国乳がん研究協会に寄付

ボズレー社では、売上の一部を米国乳がん研究協会に寄付しています。



アーム治具を自作

店舗では、お客様のことを考え、どうすれば喜んでいただけるかを実践しています。ヘアサロンこもれび九州がんセンター店では、喉の手術をされたお客様はヘアカットガウンがそのままでは息苦しいと感じられることから、店舗のスタッフがアームを自作し、お客様が座られる椅子に取り付け、施術中でも苦しくないようにしました。



無償レンタル用のウィッグを寄贈

アデランス台湾社は、2017年に店舗の展示サンプル品を、高雄市内の病院へ寄贈しました。病院内ヘアサロンの出店を模索する中、台湾ではウィッグの無償レンタルに需要があることがわかり、レンタル用として寄贈することになりました。2018年には、台中市にある病院へウィッグ10枚と脱毛時帽子20枚を寄贈しました。



「レディスナイト・チャリティファッションショー」を開催

アデランスUK社は、イギリスのブライトンでCSRイベント「レディスナイト・チャリティファッションショー」を開催しました。「レディスナイト・チャリティファッションショー」は、脱毛で悩まれる方が多くいることを広く社会に伝え、脱毛についてのサポートを呼びかけることを目的に開催したものです。

英国の名門レスター大学での 戦略的 CSR 講義

秋篠宮家の眞子様が学ばれた英国のレスター大学より、アデランスが招聘され、3度目の特別講義を行いました。

2018年8月11日、イギリス中西部にある国立の名門レスター大学より正式の招聘を受けビジネススクールのマスタークラスの学生を対象に、日本企業初となる3年連続でCSR講義を行いました。

最初に、代表取締役社長の津村佳宏が、会社概要や沿革、どのような商品やサービスを提供しているか、どの地域で企業展開をしているか、今後どのようなビジネスプランがあるかについて説明しました。

次に、グローバルCSR広報室の担当役員の箕輪睦夫が「事業と一体化した戦略的CSR」のタイトルで、CSR活動を推進したことによりもたらされたポジティブな事例を紹介しました。

続いて、グローバルCSR広報室室長の新田香子より、当社のCSR活動を取り上げた様々なメディアの広告換算値をもとに、CSRの経済価値について説明しました。

最後に、英国のアデランスUK社GMのアネル・ワイヤットがヨーロッパでのCSR活動を紹介しました。ウィッグ・アンバサダーのジョアンナ・ロウセル氏から、ビデオメッセージによる力強いコメントも寄せられました。

講義終了後は、津村社長、箕輪役員らの講演者のところに学生が集まり、相次ぐ質問や写真撮影の依頼が途切れることなく続き、当社のCSR活動に対する学生の興味の深さを感じました。



レスター大学について

レスター大学 (University of Leicester) は1921年に創設された英国イングランド中部、レスター市に位置する国立大学。比較的小さな規模にもかかわらず、英国では最も優れた大学のひとつとして、認知されている。教育・研究において国際的な名声を誇り、多数の著名な研究者や有力者を輩出し、世界のトップ200大学にもランキング。2014年9月から1年間、秋篠宮家の眞子内親王が大学院博物館学研究所に在籍された大学としても知られる。

レスター大学での講演

初回の講演 (2016年)

サマーセッションの特別講義にて、執行役員グローバルCSR広報室担当の箕輪睦夫とアデランスUK社社長リン・ハリス (当時) が講演いたしました。



2回目の講演 (2017年)

MBAコースの正規の授業の中で講義を行い、当社代表取締役社長の津村佳宏もスピーカーとして講演いたしました。



株式会社アデランス
代表取締役社長
津村 佳宏

英国レスター大学は世界的な名門校であり、同校のMBA授業にて、アデランスグループ経営方針「ECSR三方よし経営」の講義を2年連続にて実施出来た事は、当社の経営活動がケーススタディとして、社会貢献および企業価値向上に寄与したものと光栄に思います。特に今年は昨年の約50名に対し、世界から集まった受講者が100名以上に増え、受講者の真剣なまなざしに、改めて襟を正す思いと、当社企業活動への自信が確信に変わった瞬間でもありました。

当社のCSR経営理論が3年連続にて、レスター大学でのケーススタディに組み込まれる事は、正にアデランスグループが企業として社会的に高い評価を受けていると共に、年々評価が高まる事に対し、この現実をグループ全員が慢心することなく真摯に受け止め、ECSR三方よし経営をさらに磨き、鋭意邁進していく所存です。



株式会社アデランス
社外取締役
高野 一彦

当社は2016年に日本企業として初めて、イギリスの名門レスター大学大学院に正式に招聘され、MBA (経営学修士) の学生に特別講義を行い、今年は3年連続での招聘講義になります。当社は、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなど、19の国と地域に事業を展開しているグローバル企業です。名門レスター大学MBAで、3年連続で特別講義に招聘されたことは、当社がグローバル企業として、その卓越したCSR経営が世界的に評価されていることを示しています。この特別講義は、いままで大学ジャーナルなどの多くの媒体で紹介されてきました。また日本経営倫理学会CSR研究部会においても講義内容「ECSR三方よし経営」が紹介され、学会としても有意義な活動として高く評価されています。



金沢工業大学
基礎教育部 教授
岡部 幸徳 様

3年連続で開催されたアデランス社による特別講義を今年も現地の大講堂教室で拝見できたことは望外の喜びでした。

今年は、これまでの2回と比較しても本当に学生達の聴講時の反応が鋭く、津村社長の導入講話、箕輪氏によるCSR活動の要諦説明、新田氏のCSR活動に関するメッセージ、そしてアデランスUKのCSR活動に特化して説明をおこなったワイヤット氏の高話を、より深く知ろうとする質問が学生達から何度も出されました。その度、アデランス社がユーモアを交えながら丁寧に回答したのです。

その熱意ある高話と回答は、アデランス社のCSR活動に関する理解について、大いなる助けとなりました。終了後には、大変多くの学生たちが、関係者全員を取り囲み、質問攻めにしていたことが今でも脳裏に焼き付いています。



株式会社アデランス
執行役員
海外事業本部 副本部長
グローバルCSR広報室 担当
箕輪 睦夫

昨年のMBA講義に対してとても高い評価をいただき、もっと多くの学生に当社の講義を聞いて欲しいとの意向をレスター大学より受け、今年はMBAサマーセッション特別講義として、より多くの学生を前に当社のグローバルに広がる戦略的CSRについて紹介することができました。

前回までは、日本の伝統的な「三方よし」の理念を生かしたCSR活動、例えば、「お子さまへのウィッグプレゼントの愛のチャリティ」、「抗がん剤治療の患者様に寄り添う病院内ヘアサロン」、「ウィッグと植林をつなげるフォンテーヌ緑の森キャンペーン」などの当社独自の活動を取り上げてまいりましたが、今回はそうしたCSR活動の「成果と評価方法」にフォーカスして説明することで、多くの学生や大学関係者の興味を改めて喚起することができました。



アデランス UK
Business Development
Manager
アネル・ワイヤット

今回、アデランスUKを代表して我々のCSR活動について発表できたことを光栄に思います。講義を通じて、我々のCSR活動の始まり、英国のチャリティー団体との関わりを説明することによって、CSR活動の基盤を理解していただいたと思います。私達にとって一番重要なことは、人生で最も辛い時期の人々へ笑顔を与えることです。当社のCSR活動は、ポジティブな社会貢献をし、素晴らしいブランディングや企業評価を得ています。これを学生方へ発表し、多くの質問に答えるのがとても楽しかったです。日本から学んだCSR活動ですが、今はアデランス・ドイツ社が私たちのCSR活動に影響を受け、ヨーロッパでの広がりを感じています。2019年にまた講義に参加するのが楽しみです。



レスター大学 教授
シグモンド・
ワグナー塚本 様

本講演は、100名を超える学生、卒業生、ビジネスの専門家がマスタークラスの一環として世界中からレスターに集まり、アデランスの講演は、参加者に大好評を博しました。

CSRにおいて、同社が実証し得た活動の広さや深さ、国内外の活動をどのように支援してきたか、同社の顧客や社員を巻き込んだ企業の社会的責任に関する様々な活動に、聴講者は深く感銘を受けました。

また、企業のCSRに、どのような経済価値があるかについて、興味深い説明がされました。これは企業のCSRと、企業倫理や倫理イニシアティブに関する戦略的アプローチとが結びつくものでした。

講演後、壇上には、たくさんの質問やポジティブなコメントが殺到しました。マスタークラスの学生、卒業生、ビジネス専門家がレスターにもたらした熱意の高さを表すように、議論はかなりの長時間にわたりました。



一般社団法人経営倫理
実践研究センター (BERC)
事務局長
河口 洋徳 様

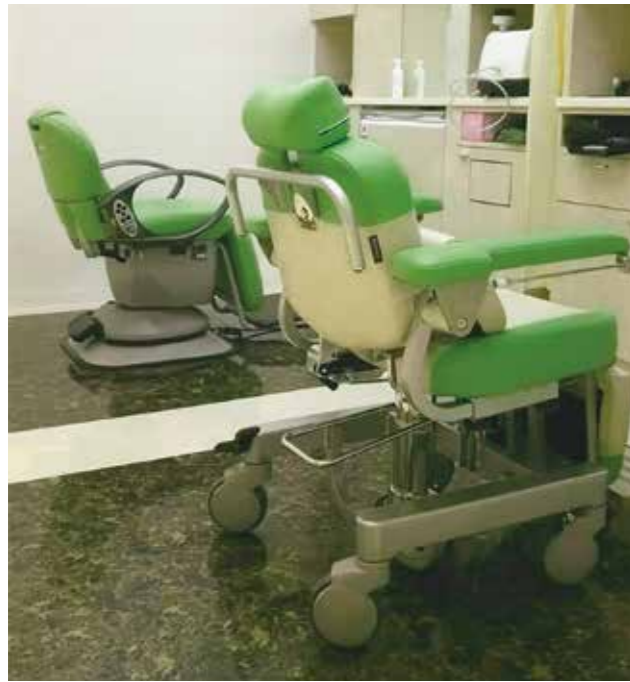
創立50年を迎え益々業容を拡大される中、この英国レスター大学でのCSRについての講義は、今年3度目になると伺いました。昨年私自身国内の学会の集まりで同じ内容を直接お聞きしました。

ともすると規模と利益の拡大にのみ目を奪われがちな企業経営の中で、しっかりと哲学で裏打ちされた創業の精神と社会へのお役立ち、人々への感謝を忘れない経営姿勢の中に、いわゆるCSVをも超える戦略的CSRの推進、これがアデランススタイルです。

感動の伝達の大切さ、感謝の心の重さをこれからも大切に、次の100年に向けた企業努力に期待しています。

お客様の安心・安全

7つの中核主題
 組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行
 環境 消費者課題 コミュニティへの参画及び発展



アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げ、お客様の満足と信頼を高めていくために、グループ一丸となって取り組んでいます。

当社は髪を通じて心の健康をサポートする医療事業活動に積極的に取り組み、その一環として病院内理美容室（ヘアサロン）を、2002年に開設し、現在では全国で30店舗となりました。

病院内ヘアサロンでは、一般的な理美容サービスのほかに、医療用ウィッグ及び他社商品のアフターケア、抗がん剤治療に伴う副作用の脱毛時のご相談や外見支援のご相談により、患者様のQOL（Quality of Life）の向上に向けたサービスを提供しています。

また、移動が困難な患者様を病棟までお迎えに行き、そのまま理美容サロンで技術が提供できる移動式の理美容イスを導入するなど、バリアフリー化も行っています。患者様の身体的な配慮という点で、病院関係者から高い評価をいただいています。

やさしい接客

病院を訪問させていただくスタッフ、患者様をお手伝いさせていただくスタッフには、医療知識などの講習を義務付けています。

多様なニーズやご希望のスタイルにお応えできるよう、充実した内容の研修プログラムを実施するとともに、心のケアにも努め、医療用ウィッグを扱うプロとして対応します。

外部専門講師による医療接客講習は、VOL-NEXT社（がん患者サービス事業会社）により実施され、2005年以降の受講者数は2,000名を超えました。

病院内ヘアサロン

2002年に国内初の開設
 様々なお客様のご要望にも対応

病院内ヘアサロンの海外展開

日本で評価の高い病院内ヘアサロンを、2011年からドイツ、オランダ、スウェーデンにも導入し始めています。今後、欧州だけでなく米国への展開を予定しています。（スウェーデンやオランダなどに8店舗2018年5月現在）

ゲンゼとアデランスの連携で、より多くの人に笑顔を

ゲンゼは、患者様のQOLの向上に貢献できる製品「メディキュア」を、2016年より販売を開始しています。「肌にやさしい」素材の特長を生かして、入院中や手術後の悩みを、少しでも軽減できればとの思いから開発しました。

そして自社の通販を行う中で、実際に製品を手にとって触れてみたいとのご要望を、患者様や医療関係者か

らも多数いただきました。そうしたご要望をうけ、今回の提携となりました。

病院内ヘアサロンの取り扱いにより、入院・通院中の方に、アピランスケアとセルフケアの両面から、QOL向上へのお手伝いができると考えています。

今後も、両社が連携することで、より多くの方に、笑顔を届けられることを願っております。



ゲンゼ株式会社
 QOL研究所 企画調査室 室長
 上島 進 様

活動トピックス

お客様のニーズの具現化 外部組織との商品コラボレーション



HairRepro MEDI α ～頭皮用保湿ローション～

当社は、新規αリポ酸誘導体（保湿成分）を配合した頭皮用保湿ローション「HairRepro MEDI α」を、2018年1月に発売いたしました。この商品は、乳がんなどで抗がん剤治療を行う方でも使用でき、頭皮を本来の健やかな状態に保ちます。また、新規αリポ酸誘導体（保湿成分）を頭皮用として利用するのは、世界で初めてとなります。



メディキュア ～ゲンゼ様とのコラボレーション～

2017年9月から、当社の病院内ヘアサロンにて、ゲンゼ社の低刺激インナー「メディキュア」の取り扱いを開始しました。これまで、「メディキュア」ブランドの販売は、電話及びインターネットを通じてのみとなっておりましたが、多くの患者様、医療関係者の方から「商品に触れたい」とのご要望があり、病院内ヘアサロンで、直接手に取り、目に触れる形で取扱うこととなりました。



アピランスケア ～ライフネット生命様とのコラボレーション～

ライフネット生命保険株式会社と当社は、がん患者様へのサポート体制の構築と医療用ウィッグへの理解促進を目的にした提携を、2018年1月より開始しました。今回の提携により、ライフネット生命が提供する「がん生活サポートサービス」の中で、当社はアピランスケアという側面から、がん患者様へのサポート体制の構築に協力して参ります。



N-LED Sonic ～シャープ様とのコラボレーション～

シャープ株式会社と当社は、ヘアドライヤー「N-LED Sonic」を共同開発し、2017年10月に発売いたしました。この商品は、シャープの独自技術「プラズマクラスター」と当社が開発した「N-LED beam™」を集結した新発想のヘアドライヤーで、髪と頭皮にダイレクトにアプローチします。



TEAM Raфра ～VOL-NEXT様とのコラボレーション～

「TEAM Raфра」は、がん患者生活サポート会社・株式会社 VOL-NEXTと共同で開発した商品で、2018年6月に発売いたしました。VOL-NEXTがこれまでサポートしてきた約20万人の患者様から学んだニーズやノウハウを活かし、女性のがん患者様が1日を通して職場と家庭で着用できるよう職場用・家庭用の2枚1組となっています。



OVE ～シマノ様とのコラボレーション～

OVEは、株式会社シマノが運営されているライフ・クリエイション・スペースです。2018年6月、チェリスト大前知詩様のコンサートの会場となり、当日は当社のCSR活動紹介やウィッグ試着なども行いました。シマノが提供されている自転車に共通するような、健康的で豊かな暮らしをもたらす、ウィッグの魅力を伝える場となりました。

クレド
社員自らが考えまとめた
「おもてなしの心」の規範



当社は、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げています。

お客様の満足と信頼を高めていくために、当社が一丸となって取り組んでいる活動の一つに「クレド (Credo)」があります。(クレドとは、判断・行動の基本となる信条、志、約束などの意味です。)

2009年、当社の社員自らが日本全国から集まり、お客様の満足とは何かを考え、全社員が共通の認識を持ち行動できるようにと、クレドをまとめ、制定しました。現在、全社員はクレドを常に携帯し、経営理念・お客様に対する基本的なサービスの姿勢・考え方など、クレドの実現に向けた考動(「考え」+「行動」)を心がけています。

さらに、日本で始まったクレドは、世界各地のアデランスグループにも広がり、創業精神である「お客様を想う心」は、世界中のお客様の笑顔に向かう姿勢となっています。



アデランスのクレド



米国ヘアクラブ社のクレド



米国ボズレー社のクレド



アデランス・ベネルクス社のクレド



アデランス台湾社のクレド



アデランス上海社のクレド

社内教育の充実 技術競技大会の歴史

当社は、「私たちが目指すもの」として「最高の技術と知識」を経営理念の一つとして掲げています。

創業以来、社員の技術と知識を高めるため、研修の充実を図り続けてきました。また、全国の技術者を対象とした「技術競技大会」を1980年から開催し、競い合うことでお互いを高め、さらなる技術力の向上を図っています。

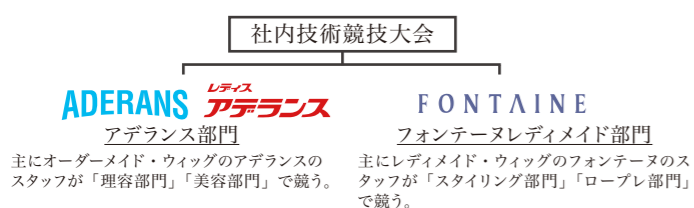
従来、社内技術競技大会はアデランス・レディスアデランスを対象に開催していましたが、ファンテーヌにおいても、当社の強みである「接客力」「技術力」の更なる向上を目的に、2016年から開催を始めました。

2018年には、創立50周年を記念し、「第1回世界ウィッグ技術競技大会」を開催しました。世界中のアデランスグループが一丸となって、さらなる技術力向上に努めています。

毛髪診断士の資格取得

毛髪と皮膚の専門的な知識をお客様へ正しくお伝えできるように、毛髪診断士(日本毛髪科学協会)の資格取得を推進しています。

- 社内の資格保有者数
- ・毛髪診断士：336名
 - ・認定講師：13名
 - ・認定指導講師：7名 (2018年6月現在)



タンゴ歌手
冴木 杏奈 様

冴木杏奈様は、タンゴ界において新しい感性の歌手として注目を集め、「世界が尊敬する日本人100人」(ニューズウィーク日本版)や「タンゴに貢献した20人」(アルゼンチン)に選ばれ、タンゴ界最高峰の詩人オラシオ・フェレル氏からも「グラン・アルティスタ(偉大なるアーティスト)」と称賛を受けるとともに、世界各国で高い評価を得ています。



世界を魅了する天使の歌声・冴木杏奈様のコンサートや舞台などで、フォンテーヌのウィッグをご使用いただいています。2013年6月のパリでの公演や2014年3月のNYでの公演などでは、現地の当社関連会社がウィッグとヘアメイクのサポートを行い、世界で事業展開している当社の強みを発揮した支援となりました。また、長年ご愛用いただいている冴木様と吟味を重ねて開発したコラボレーションウィッグを製作致しました。

書道家
永田 紗戀 様

永田紗戀様は、女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多くのお客様から支持されているアーティストです。近年はレッスンや講師の養成に力を注ぎ、現在は全国に30名もの認定講師を輩出しています。



当社の社内報、カレンダーや本レポート等に多くの作品を書き下ろしていただいています。特にカレンダーは、社員やお取引先様にとっても好評です。また、当社が主催するイベントでは、サックスの音色に合わせ、LIVEパフォーマンス書道を行っていただいています。

元・女子自転車競技
五輪金メダリスト
ジョアンナ・ロウセル 様

ジョアンナ・ロウセル様は、ロンドン(2012年)、リオデジャネイロ(2016年)でのオリンピックで2大会連続金メダルを獲得した元英国自転車競技選手です(2017年3月に引退)。また、幼い頃にアロペシア(脱毛症)に患われ、髪の毛のほとんどを失われていました。

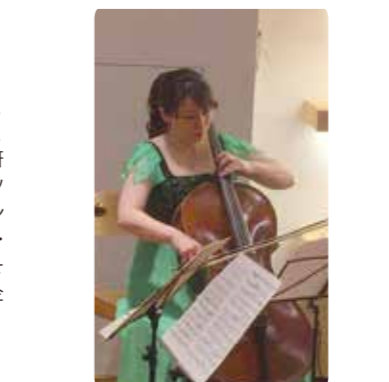
ロウセル様とアデランスUK社との出会いは、オリンピックのセレモニーの際に使用するウィッグを求めてロンドンのお店にいらしたときでした。また、ロウセル様の結婚式での、ウィッグをつけたロウセル様の写真が英国の人気雑誌「Hello」誌に取り上げられ大きな話題となりました。



アデランスUK社のウィッグ・アンバサダーとして活動いただき、来日時には、円形脱毛症への更なる理解をいただくイベントに出演いただきました。スポーツの世界に“自分でコントロールできることに集中せよ”という言葉があり、「自転車競技が私の人生に自信を与えてくれて、ウィッグが私自身を取り戻させてくれた」というメッセージには会場に感動と勇気を与えました。

チェリスト・料理家・ソムリエ
大前 知誇 様

大前知誇様は、桐朋学園大学音楽学部を卒業後、ニューヨーク・ドイツ・パリの各音楽院にて学ばれ、国内外のリサイタルで活躍されています。音楽の研鑽を積みながら、パリの名門ホテル、ホテル・リッツ内にあるエコール・リッツ・エスコフィエにてフランス料理・製菓・パンすべてのコースを終え、グランド・スーペリオール・ディプロマを取得されています。その経緯から、「音と食のコンサート」という独自の企画を主宰し、活動が注目されています。



チェリスト・料理家・ソムリエとして活躍されている大前知誇様に、コンサートや料理教室の際にご使用いただく、ウィッグや付け毛のサポートを提供しています。また、大前様が発起人の音楽と料理を掛け合わせた「旅する音の輪舞曲」シリーズ第20回では、当社フォンテーヌとコラボレーションし、当社のCSR活動を伝えるとともに、ウィッグの試着体験会を実施しました。

環境への取り組み

— 7つの中核主題 —
 組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行
 環境 消費者課題 コミュニティへの参画及び発展



フォンテーヌ緑の森キャンペーン ウィッグの回収と環境保全を結ぶエコサイクル 2009年のキャンペーン開始から10周年

アデランスグループは、「環境」を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、「低炭素社会」「循環型社会」「自然との共生」に配慮した活動に取り組んでいます。

当社の主力商品であるウィッグは、約80%以上がポリエステル由来の人工毛髪で作られているため、お客様がご使用されたあと、家庭ごみとして廃棄されると、CO₂の発生が危惧されます。

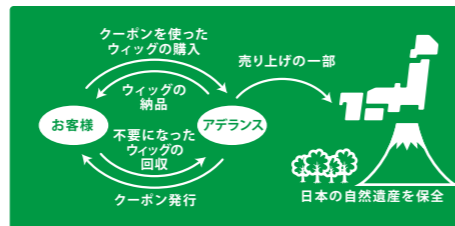
そのようなウィッグを回収して、当社が適切な廃棄処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができるのではという思いから始まったのが「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」です。

環境保全面積	面積 (m ²)
2009年度	406
2010年度	1,813
2011年度	2,063
2012年度	2,531
2013年度	3,469
2014年度	5,013
2015年度	6,825
2016年度	7,875
2017年度	12,459

環境保全面積は、植林の場合は植林本数に応じた面積、環境保全団体への支援の場合は当該団体の管理面積と当社からの支援比率をもとに、試算したのになります。

日本全国7つのエリアでの環境保全活動に拡大

このキャンペーンは、2009年から山梨県での植林で始まり、2017年からは「フォンテーヌ緑の森キャンペーン エコロジカルプロジェクト」として、日本全国の自然遺産を保全する活動となりました。日本の美しい自然を未来の子どもたちへ残すため、全国規模の環境保全へと展開を広げていきます。



フォンテーヌ緑の森キャンペーン

フォンテーヌ店舗で、お客様の使われなくなったウィッグ（他社商品を含む）を店頭にお持ちこみいただいた際に、クーポン券（緑のクーポン）を進呈します。このクーポン券を利用することで、新たなフォンテーヌウィッグを購入いただく際に割引価格が適用されることに加え、お買上商品1点につき100円分を環境保全活動に還元します。



NPO 法人さくら並木ネットワーク

100年に1度はやってくるという地震と大津波の際に住民避難の目印となることを目的として、東日本大震災の大津波到達地点に桜の植樹活動を行なっています。



取引先様・お客様からの評価の高いキャンペーン

「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」の取り組みを始めてから10年目を迎えることができました。最近では取引先様である百貨店にとっても恒例となったように感じます。百貨店は元来、CSR活動を非常に重要視されています。百貨店独自の取組みより、当社のようなメーカーとスクラムを組むことで、CSR活動の幅が広がれば、世間への良いアピールにつながります。実際「うちの実績で、どのくらい貢献出来た

か発信したい」という声からも、その様子が伺えます。営業の現場においても、このキャンペーンが有効に機能していて、自ら商品を持ち込まれ買い替えをされるお客様も増え、また購入を迷われているお客様が、前に進むきっかけにもなっています。今後も、「自社の強みを生かした」この取組みを、取引先様と共に継続させ、さらにお客様参加型の内容に進化させていきたいと考えています。



株式会社アデランス
 フォンテーヌ営業企画部 部長
 藤生 善則

活動トピックス

タイ工場での取り組み Thailand



ウィッグ製作時の廃材の活用

アデランス・タイ社では、ウィッグ製作の過程で、短い毛材、ネットの切れ端やドラム缶など再利用できない資材が生じています。そのような資源を廃棄するのではなく、有効活用できないかと考え、造花、サンダルなど多種多様な試作に取り組み、展示用やプレゼント用に役立てています。



ISO14001の取得

ISO14001(国際環境管理規格)を1999年に認証取得し、以下の活動を継続して実施しています。

1. 工場排水による水質汚染の防止
2. 工場内における空気汚染の防止
3. 産業廃棄物の安全処理
4. 有資源の効果的使用
5. 工場内の労働環境改善



現地子供たちとの学校内植林

アデランス・タイ社が賛同するTO BE NUMBER ONE活動の一環として、子供たちに環境への意識を高める目的で、現地の学校の先生、生徒の皆さんと学校内植林を実施しています。この植林イベントは2009年から継続して取り組んでいます。

環境負荷の低減



3D型取りシステムを導入

2014年12月より、独自に開発した3D型取りシステムを店舗に導入しました。これにより、従来の頭髪測定で使用するフィッターを削減できるとともに、フィッター輸送が不要になるため、環境にやさしい対応ができるようになりました。



LEDを活用した店舗へ

「レディスアデランス」の店舗に、美術館のように多彩なウィッグを展示する「スタイル・ミュージアム」の導入を進めています。照明のLED化など消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗造りを進めています。



ウィッグの環境に配慮した廃棄

お客様がご利用になられなくなったウィッグは、当社が回収し、環境に配慮した適正な廃棄を行っています。産業廃棄物処理会社（JFE環境 川崎エコクリーン工場）と契約し、CO₂の削減に努めるなど、環境に配慮する形で進めています。なお、人工毛髪の材料はポリエステルですが、塩ビを使用しないことで、焼却しても汚染物質の発生がしにくくなっています。

アデランスの CSR 活動 過去・現在・未来

当社は、創業以来お客様の毛髪の悩みを解決するために、自らが実現できる価値や強みを「事業と一体化」することに取り組み、様々な「社会的価値を持った活動」を産み続けてまいりました。

これらの取り組みを振り返り、「健全で持続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーとしてCSRへ取り組むことの意義を定めることで、事業との一体性を明確にし、CSR活動の基軸を営業現場においた、本業を通じたCSRと位置づけています。

また、組織横断的に存在する社内の「社会的価値を持った活動」の「見える化」の徹底を図り、小冊子『笑顔のために』やCSRコミュニケーションレポートなどにまとめ、社内外に対して積極的にコミュニケーションを図っていきました。

このCSRの定義とコミュニケーションにより、日本だけでなく海外子会社においても、お客様に最も近い場所で社会的価値を持った活動が躍動感を持って行われ、活動の領域はさらに広がっています。

このような価値創造型の取り組みが、アデランスの戦略的CSR活動の特徴と言えます。

※社会的価値をもった活動=社会的課題を自社の強みによって解決していくこと

組織横断的掘り起こし

社外への問いかけ

「社会的価値を持った活動」の見える化

社内外へのCSRコミュニケーション

国内外・新たな領域へのCSR活動の広がり

CSR 活動の振り返り

CSRプロジェクトとして立ち上げた箕輪睦夫と現在のグローバルCSR広報室スタッフで、当社のCSR活動のこれまでの振り返りと今後の活動に関して対談を行いました。



執行役員
グローバル CSR 広報室 担当
箕輪 睦夫

2011年に2年間の米国駐在から日本に戻ったとき、社内には経営の大きな変動があり、不安定な雰囲気がありました。そこで、社員の皆さんに、当社の仕事にプライドとやり甲斐を取り戻してもらうため、創業から今日まで続く、「社会的価値を持った活動」を組織横断的に掘り起こし、社内での見える化を目指し、CSRプロジェクトを立ち上げました。「社員に元気で笑顔になってもらう活動」、これが当社のCSRの原点といえます。

営業現場で行なわれている社会的価値を持った活動、例えば「40年以上続く愛のチャリティ」「がん患者様に寄り添う病院内ヘアサロン」「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」「ミュージカルのためのエンターテインメントウィッグ」などを、『笑顔のために』という小冊子にまとめることで「見える化」を具現化し、社内の営業会議などで紹介を始めました。こうした地道な活動が、お客様や取引先、公的機関へと効果的に伝わることとなり、CSR活動の領域が広がってきました。

当社に内在するそのような素晴らしい活動の「継承」と「伝播」こそが、今後のグローバルCSR広報室の大事な役割として期待しています。



グローバル CSR 広報室室長
新田 香子

グローバル CSR 広報室
玉橋 美咲

「CSR」はアデランスの経営ビジョンのベースになっています。CSR部門と広報部門が一緒になったからこそ、今までの広報経験をいかし、一人でも多くの方に伝えていきたいと思っています。

そのために、当社のCSR活動を一から学び、そこにある活動の意義を正しく捉え自分の言葉に置き換えて伝え続けることが大切だと感じています。

今後は、CSRと広報とのさらなる融合をはかり、積極的な外部発信や経済的側面からの見える化などにも注目してまいります。

CSRプロジェクトが発足した当時の話を伺い、当社のCSR活動とは何なのか、軸は何なのか、一度振り返る必要があると感じました。

箕輪役員から引き継いだものを、単にそのまま継続するだけではなく、社会経験が浅いなりオリジナリティ溢れる新しいCSR活動を、展開していきたいと思っています。

また、広げたCSR活動を大学講義など学生に紹介していくためにも、新しい大学を開拓して参ります。

アデランスの CSR 活動の歴史

	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
社会地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 1978 愛のチャリティ 	<ul style="list-style-type: none"> 1980年代 クリスマス・サンタ企画 1983 人工毛髪の研究開始 1986 タイ工場設立 	<ul style="list-style-type: none"> 1991 人工毛髪の商品化 1995 Hair Club For Kids 	<ul style="list-style-type: none"> 2002 フィリピン工場設立 2010 ピンクリボン運動への協賛 2010 (米国) 支援団体へのウィッグ寄贈 2011 (英国) リトルプリンセストラストへの支援
お客様の安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> 1970 業界団体「(現)日本毛髪工業協同組合」設立協力 1974 人工皮膚ウィッグを発売 1979 型取り(フィッター)を開発 	<ul style="list-style-type: none"> 1980 全国技術競技大会を開催 1981 国内自社生産工場の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 1999 タイ工場でのISO9001取得 	<ul style="list-style-type: none"> 2002 病院内ヘアサロンの開始 2005 医療用ウィッグ接客のための医療接遇講習の実施 2010 クレドを導入
環境への取り組み			<ul style="list-style-type: none"> 1999 タイ工場でのISO14001取得 	<ul style="list-style-type: none"> 2006 節水用シャワーヘッドの導入 2009 フォンテーヌ緑の森キャンペーン 2009 アデランス・タイ社での学校内植林
学術・文化活動		<ul style="list-style-type: none"> 1983 劇団四季ミュージカル『キャッツ』日本初公演 1985 スタジオADによる文化芸能活動の支援 		<ul style="list-style-type: none"> 2006 大阪大学への寄附講座
CSR 広報活動				<ul style="list-style-type: none"> 2012 CSR小冊子発行 2012 CSR-Webサイト開設 2012 大学でのCSR講義開始
				<ul style="list-style-type: none"> 2012 (英国) My New Hair への支援 2012 ラオスでの生産開始 2012 One World プロジェクトへの協力 2012 ピンクリボンのお宿ネットワークに協賛 2011 病院内ヘアサロンの海外展開 2013 毛髪診断士の資格取得 2014 AIU 損害保険との提携 2015 医療用ウィッグのJIS規格化 2012 LEDを活用した店舗へ 2012 ウィッグ製作時の廃材の利用・植林 2014 3D スキャナーによる型取りシステム 2015 (米国) Pay It Forward 2012 東京大学との共同研究 2013 大分大学との共同研究 2013 輝く女性への応援 2012 CSRコミュニケーションレポート発行 2013 野村證券ハッピーライフセミナーへの協力 2015 書籍の共同執筆
				<ul style="list-style-type: none"> 2012 (タイ) 病院等へのウィッグ寄贈 2014 (米国) 乳がん研究会への寄付 2014 国連グローバルコンパクトに署名 2015 NPO 法人 JHD&C への協力 2017 全国ロープレ・スタイリング大会 2017 ソーシャルプロダクツ賞を受賞 2018 ライフネット生命保険との提携 2018 新発想の医療用ウィッグ発売 2016 オーガニック認証商品の販売 2017 フォンテーヌ緑の森キャンペーン 日本全国規模の環境保全活動に拡大 2014 東京工業大学との学術契約締結 2015 国際文化交流公演に協力 2017 パリコレクションに協力

学術・文化活動

7つの中核主題
 組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行
 環境 消費者課題 コミュニティへの参画及び発展

アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。



撮影：下坂敦俊



作品の世界観や役柄に合わせたウィッグをデザインした指示書

スタジオAD

ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団 エンターテインメント業界を支えて35年

アデランスは、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。中でも文化芸能部門であるスタジオADは、日本を代表する舞台芸術・映像作品を手掛けています。

1983年にミュージカル『キャッツ』が劇団四季によって日本で初演されました。『キャッツ』の激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季のヘアメイク・衣裳デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。その後、当社独自の芸能用ウィッグは、『オペラ座の怪人』、『美女と野獣』、『クレイジー・フォー・ユー』といった日本を代表する舞台芸術に採用され、その他にもさまざまな映画やテレビ、コンサートなどに使用されています。

『キャッツ』のノウハウを活かして誕生した 女性用レディメイド・ウィッグブランド「VALAN®」

「VALAN®」は、『キャッツ』から学んだノウハウを活かし、激しいダンスにも対応できる耐久性と通気性を備えた素材をウィッグの土台に採用しました。また当時のレディメイド・ウィッグは、カットやセットはせずに、そのままお客様にお渡しすることが常識となっていました。当社では、お客様に合ったウィッグを目の前で仕上げるといふ、新しい発想の提案をしたことで、お客様のご満足とより高付加価値を提供することができました。以来、おかげ様で多くのお客様にご愛顧いただき、今年で「VALAN®」はブランド発足30周年を迎えました。

進化し受け継がれていく、30年以上の蓄積されたノウハウ

日本での『キャッツ』の初演から、アデランスの文化芸能活動が始まり、1985年にスタジオADがスタートしました。当社独自の芸能用ウィッグは、それ以来様々な舞台で使用され舞台以外にも、ドラマや映画、コンサートなど活動の幅を広げてきました。

スタジオADは、現状のウィッグに満足することなく細かなマイナーチェンジを繰り返し、文化芸能の世界が必要とする、髪型やメイクをビジュアル的に追求して

きました。30年以上の長きにわたり蓄積されたノウハウは、これから先も受け継がれ更に進化を続けていくでしょう。

人々の好みの変化や世の中の流行そして技術の進化に対応すべく常に「今が最高」とは思わずに進化し続ける集団で在りたいと思います。そして何よりも最高のものを提供し続ける事がアデランスグループの一員としての使命なのです。



株式会社アデランス 文化芸能部 マネージャー 坂井 一夫

活動トピックス

毛髪の未来に向けた産学連携

当社は、企業の使命として、経営理念の一つである「最高の商品」の開発および毛髪関連業界の発展を目指し、産学連携による毛髪関連の研究に積極的に取り組んでいます。

大阪大学:脱毛・発毛のメカニズムの解明



2006年4月より、大阪大学大学院医学系研究科に寄附講座を開設しました。日本における毛髪研究の第一人者である、大阪大学大学院医学系研究科の乾重樹特任教授を中心とした研究チームと脱毛・発毛のメカニズムの解明を進めています。

大分大学:抗がん剤治療時の脱毛予防



2013年11月より、最先端のがん研究を行っている大分大学 消化器・小児外科学講座の猪股雅史教授と、抗がん剤治療の副作用である脱毛の予防に関して共同研究を進めています。

東京大学:がん患者様のQOL向上



2012年1月より、東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学分野の真田弘美教授の研究グループと、患者様のwellbeingを目指したスカルプケア、医療用ウィッグに求められる条件等の研究を進めています。

東京工業大学:より美しく、より自然な人工毛髪



2014年12月より、紡糸工学およびプラスチック加工における世界的権威である東京工業大学 物質理工学院 材料系の鞠谷雄士教授と学術契約を締結し、人工毛髪研究における共同研究を進めています。

「毛髪診断コンソーシアム」に幹事法人として参画



2017年12月、「毛髪診断コンソーシアム」に幹事法人として参画しました。

「毛髪診断コンソーシアム」は、国立研究開発法人理化学研究所が構想提案し、2017年4月1日に設立・開始されたプロジェクトで、毛髪に蓄積される健康指標や疾患指標による新たな非侵襲型診断システムの確立に向け、科学的なエビデンスに基づくビッグデータの構築を目指す共同研究プロジェクトです。

当社は、毛髪総合企業のリーディングカンパニーとしての知見を生かし、毛髪を活用した簡単に速い身体検診システムや毛髪検診の実現を目指してまいります。

研究発表活動

(2018年8月、東京)



第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会においてランチョンセミナーを2年連続で共催

(2018年5月、広島)



第117回日本皮膚科学会総会においてランチョンセミナーを2年連続で共催

(2017年10月、京都)



第10回世界毛髪研究会議「World Congress for Hair Research (WCHR2017)」において3つのセミナーと企業展示を共催

(2017年10月、金沢)



第5回看護理工学会学術集会においてランチョンセミナーを共催

海外での取り組み

現在、アデランスグループは、世界 19 の国と地域で事業を展開しています。各国のグループ会社においても、国内の CSR の取り組みと連動して「自社の強みを社会で活かす」を基本精神に、「笑顔を広げる」活動を実施しています。

ヨーロッパでの活動



「The Little Princess Trust」へのサポート

アデランスUK社は、英国女王が認めた唯一のチャリティ団体「The Little Princess Trust」を2011年からサポートしています。同団体では、がんやその他の病気で髪を失ったお子様に提供された人毛で製作したウィッグをプレゼントする活動をしており、アデランスUK社は、工場への人毛の発送、サロンでのウィッグの納品など、活動を全面的にサポートしています。髪で悩むお子様に笑顔を届ける活動をしています。



人毛ウィッグをプレゼントする Hair-Wish-4-Care を支援

18歳以下の脱毛されたお子様に人毛ウィッグをプレゼントする団体「Hair-Wish-4-Care」を2007年より支援しています。提供された人毛でウィッグを製作し、お子様の笑顔を取り戻すお手伝いをしています。

また、同団体の動画制作にアデランス・フィリピン社(API社)が



がん患者様と家族を支援する財団NU JIJ の支援

アデランス・ベネルクス社フランシー・ヘアブティック店の店長であるレニー・ヴァン・ズンダートが、自身ががんになった経験から、がん患者様を支援するNU JIJ (NOW YOU) 基金を2012年に設立し、活動しています。



アロペシア団体とカレンダーを共同制作

アデランス・ドイツ社は、アロペシア・ファンデーション、アロペシア・アリアター・ドイツ協会と、アロペシアの方をモデルに起用したカレンダーを共同制作しました。サロンやアロペシア・イベントなどで販売し、売上金額はアロペシア・ファンデーションに寄付しました。



アメリカでの活動



米国ボズレーメディカルグループのエプスタイン医師がゴールデン毛包賞を受賞

当社の米国グループ会社であるボズレーメディカルグループのエドウィン・エプスタイン医師が、国際毛髪外科学会 (ISHRS) の2017年における「The Golden Follicle Award (ゴールデン毛包賞)」を授与されました。ゴールデン毛包賞は、毛髪回復手術の分野において顕著で重要な臨床的貢献をした者に授与される賞です。

写真 右がエドウィン・エプスタイン医師
左はボズレー社ロブ・スプレル社長



エプスタイン医師は、ボズレーメディカルセンターにてヘアレストレーション(毛髪回復)と毛髪移植に携わるだけでなく、ISHRSの理事や会長、国際毛髪外科学会の年次学術総会のプログラム委員長を務めるなど、ヘアレストレーションの技術発展に貢献してまいりました。また、けがによる傷や火傷、先天性疾患のある患者様に対して無料の手術を行う機関で、現在、再生手術の無料奉仕活動委員長も務めています。

アジアでの活動



病院へのウィッグ寄贈 累計枚数2,164枚

当社はタイにウィッグの生産工場をもつ縁から、ウィッグ寄贈を2012年より毎年実施しています。2018年は3つの病院に計270枚を寄贈し、開始以来累計で2,164枚のウィッグを寄贈してきました。

これまではアデランス・タイ社(ATL社)のみの参加でしたが、2017年よりワールド・クオリティ社(WQC社)で製作したウィッグも提供しています。従来のバンコク市内だけでなく、ATL工場があるブリラム地域の病院にも提供しました。



カート・ステン博士、世界毛髪会議より功労賞授与

2017年10月、国立京都国際会館(京都府京都市)で第10回世界毛髪研究会議「World Congress for Hair Research (WCHR 2017)」が開催され、当社の米国グループ会社ARI(アデランス リサーチ インスティテュート)に在籍していたカート・ステン博士に、長年の毛髪に関する研究の功績をたたえ、功労賞が授与されました。



カート・ステン博士は、世界で初めて髪の成長サイクルを解明するなど、現在の毛髪研究の基礎となる発表をされてきました。ARI在籍時には、最高科学責任者として、長年数々の研究に携わってこられました。



アメリカの愛のチャリティ「Hair Club For Kids」

ヘアクラブ社では、髪で悩む子ども(6歳から17歳)にウィッグをプレゼントする、アデランスの「愛のチャリティ」同様のサポート活動を、1995年から20年以上継続して行っています。ヘアクラブ社の社員の中には、幼少期に、この活動を通じてウィッグをプレゼントされた経験を持つ者もいます。



幼少期にアロペシア(脱毛症)となり、「Hair Club For Kids」を通じて、ウィッグをプレゼントされ、ウィッグの持つ魅力を感じ、学校卒業後ヘアクラブ社に入社したイザベル

ステークホルダー・ダイアログ

今回は、経営倫理実践研究センター（BERC）特別首席研究員である田中宏司先生と中央大学総合政策学部 兼任講師 博士（人間福祉）経営倫理士・専門社会調査士の山田雅穂先生を外部の有識者としてお招きして「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました。（実施日：2018年6月12日）

コンプライアンス・CSR経営 ～ダイバーシティ・マネジメントの視点から～

企業には持続的な発展が求められています。経営環境は複雑化が進んでいます。そのためには、ダイバーシティ・マネジメントが大事になってきています。

ダイバーシティ・マネジメントを行うには、経営者と労働者の意識改革が必要です。このセミナーの冒頭で、みなさんは、クレドを唱和されましたが、会社の経営理念を、経営者とみなさんが共に心を一にすることがとても重要なのです。それが、会社の持続的な発展の礎となります。

また、コンプライアンスも重要です。「法令遵守」と訳されますが、法律を守るだけではなく、「会社を取り巻く利害関係者、ステークホルダーの要請にどう風に対応するか」というのが本当の意味です。たとえば、官庁の行政指導、社内の規則や業務マニュアルも守ることは、いわゆる法令遵守です。また、社会規範の遵守、つまり社会の良心、常識に違反しないことも、コンプライアンスなのです。さらに、経営理念・ビジョン、経営哲学、経営計画などを遵守し実践することも、コンプライアンスに含めている企業もあります。

コンプライアンス違反は社会からの批判を引き起こします。昨今、商品の品質検査改ざんなどで不祥事を起こした会社がいろいろとでてきました。そういう会社は、経営が悪化するだけでなく、社員やその家族の人生にも影響

があります。社員がコンプライアンスを守るのは、自分と自分の家族を守るためという認識が必要だと思えます。そうすることで、適正なコンプライアンスとなります。

企業が持続的な発展をするためには、コンプライアンス経営を基盤としたCSR経営に進化する必要があります。つまり、経営基盤としてのコンプライアンス、経営管理の仕組みとしてのコーポレートガバナンス、これらを統合したCSR経営ということです。冒頭で、津村社長がみなさんに本日の目的をお話しされましたが、トップが何を語るか、それは単なるメッセージではなく、コミットメントです。社内のみならず、社外に対する約束事になる場合があります。そのコミットメントを実現するために、行動指針や業務マニュアルとして形作られます。

みなさんの資料に、リーダーシップ10か条というチェックリストを配布しています。部下を持っている方はリーダーシップを発揮しなければいけません。それができているのか、仕事をやりながら自分の行動もチェックするという癖をつけると、皆さんのアデランスでの生活が充実するのではないかと思います。

今後のアデランスは、コンプライアンス経営を基盤としたCSR経営をより一層強化することで、社会から望まれる「誠実な企業」として、持続的な発展を遂げる企業となるはずで



田中 宏司 様
一般社団法人経営倫理実践研究センター 特別首席研究員
公益財団法人人権教育啓発推進センター 上級特別研究員
東京交通短期大学名誉教授

元「ISO/SR 国内委員会」委員
元「ISO26000JIS 化本委員会」委員 等
企業の「CSR委員会」の社外委員等を兼務

1959年 中央大学第2法学部卒業
1968年 中央大学第2経済学部卒業
1954年 日本銀行で国際金融、金融政策、銀行検査等の業務に従事
～90年 米国ミシガン州立大学留学（日本銀行派遣）
1970年 ケミカル信託銀行勤務
1990年～95年 早稲田大学大学院非常勤講師、立教大学大学院教授、東京交通短期大学学長・教授等を歴任
1996年
～2013年

参加者コメント

コンプライアンスもダイバーシティも日常的に意識すべきことと考えています。部署のメンバーとの会話の中で、「それは、コンプライアンス的はどうなのか?」「ダイバーシティの観点で、それはよくないのでは?」といった感じで、言葉に出していくことから始めようと思えます。

ダイバーシティマネジメント推進にあたって、管理職に期待される役割として、チェック項目があがっていましたが、部下の能力を最大限に活かしながら、会社に貢献し、かつ、自己のスキルをあげる内容となっており、とても感銘しました。

コンプライアンスとは会社だけでなく、自分と家族のためにも必要不可欠な事である、感慨深いと感じました。部下からの相談に対する答えや個人としての判断に迷うような時に活用させていただこうと思えます。

ダイバーシティマネジメントを女性の観点から考えたときに、私たち女性にしかできないことがまだまだたくさんあると思えました。女性管理職とは何か?企業としての役割とは?今までは漠然としか理解できていませんでしたが、ダイバーシティマネジメントは、CSRと密接な関係を持ち、連動していくことが大切だと考えさせられました。

社会的に反しない、あたり前のことをあたり前に行えば、社会より認められ、よりよい環境で仕事ができるということ。業績＝収益＋感動、感謝ということを伝えていきたいです。

今までも、営業部でダイバーシティについて議論したりしましたが、本日の研修で、奥が深いんだと考えさせられました。クレドの唱和を売場でもしますが、全ての中に想いが入っているのだと感じました。



アデランスのダイバーシティとCSR

日本経営倫理学会を創設された水谷雅一先生は、アメリカ生まれの経営倫理学を日本に最初に導入されました。その水谷先生が、企業が効率性や競争のみを重視し、企業を構成している人間や社会に対する責任を無視した結果、企業不祥事や差別などの問題が生じているアメリカと日本の状況を踏まえ、経営倫理は不可欠であるとおっしゃっています。

具体的には旧来からの効率性原理と競争性原理の二原理中心による利益の極大化を最重要な価値ある考え方とする企業価値観に対し、人間性原理と社会性原理をそれらと対等な価値として加えた経営価値四原理システムが不可欠であるということです。

先生の言葉を見ていきますと、経営倫理とは、組織の利益追求において、人間性や社会性を軽視したり、無視したりしないこと。企業の目的である利益追求の方法や過程プロセスが人間性や社会性の尊重といった倫理にかなわなければならない、真に社会に貢献する持続的な企業とはいえない、ということです。

この考え方をダイバーシティにあてはめて考えるとどうなるか?ダイバーシティの目的を、他者から優位になるためや組織のパフォーマンスを向上させるためだけにしてしまうと、この人間性原理と社会性原理が抜け落ちてしまわなかつたので、ダイバーシティの議論で、障害者が女性のように積極的な戦力として捉えられてこなかつたと思います。ですが、この二つ

の原理も尊重し、障害へのサポート（配慮）を行えば、障害者も立派な戦力になることを多くの先進企業が実証しており、このことは女性、LGBT、高齢者などでも全く同じなのです。

アデランスの歴史を拝見すると、CSRという言葉が日本にまだなかつた創業時から、公益性の高い本業を通じてCSR活動を長年行っている企業であるとおっしゃっています。

深刻な髪悩みのあるお客様に、商品やサービスを提供され、専門的な知識とスキルに基づいてアドバイスされる。そしてお客様にパワーを得ていただいて、お客様自身の人生をいきいきと生きていただく、ということにつながる。この点は、ダイバーシティを尊重し、促進されている事業と言えます。

また、「プロとしての細やかな配慮によってお客様の多様なニーズにすでに応えている」「多くの女性が店舗を含めた現場で活躍され、多様な人種、宗教の方々が海外のアデランスグループ各社で活躍されている」という特徴は、ダイバーシティを生かしている、グローバルダイバーシティ企業であるといえます。

アデランスの次の100周年に向けて、「何のためにダイバーシティを大切にし、推進するのか」「ダイバーシティ & インクルージョンという、誰も排除しない、誰もが力を発揮できる組織になる」「ダイバーシティを大事にする方法や仕組み作り」。これら3点を中心に強化されていくと、アデランスのCSRは、さらに上のステージに進むのではないかと思います。



山田 雅穂 様
中央大学総合政策学部 兼任講師 博士（人間福祉）
経営倫理士・専門社会調査士

【専門分野】
障害者の雇用・就労政策、福祉政策、経営倫理（Business Ethics）、Diversity and Inclusion

【取得資格】
経営倫理士（NPO法人日本経営倫理士協会）、専門社会調査士（一般社団法人 社会調査協会）、社会福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省認定）全課程修了（基礎分野講習、実習分野講習、演習分野講習）（一般社団法人日本社会福祉士養成校協会）

2002年3月 中央大学 総合政策学部 政策科学科 卒業
2004年3月 中央大学大学院 総合政策研究科 博士前期課程総合政策専攻 修了
2008年3月 法政大学大学院 人間社会研究科 博士後期課程人間福祉専攻 修了
2007年4月 法政大学大原社会問題研究所 兼任研究員
～09年3月
2009年4月 中央大学総合政策学部 特任助教
～14年3月
2014年4月 中央大学総合政策学部 兼任講師
～現在

参加者コメント

最近のニュースを見ていると、いろいろな出来事に対する企業や学校、団体などの姿勢を問われるという場面をよく目にします。これは結局、人が起こすこと。いかにして、心のセルフケア、人のケア、信念を強くもち、自分の天井は自分で決めず、そして感謝の心を持つことなど実行できればと思えました。

ダイバーシティという言葉を知らず、日々に追われ、毎日ただこなしてきたのですが、この講演を受けることで、自分の足元を見つめなおし、少し先を見据えることができました。

健全者・障害者という表現に違和感を感じるというお話があり、がんサバイバーというようなソフトな表現がないものかと考えさせられました。

「効率性」「競争性」による利益追求の構造が、障害者や女性の社会進出の弊害になっているという内容はいろいろと考えさせられました。当社は、利益の追求を推進した結果、ダイバーシティマネジメントが必然として実現したように思います。会社全体が「人間性」と「社会性」を大切にすることが理想です。そのためにも、研修会に参加した女性管理職のメンバーが一丸となって、会社を成長へと導かなければいけません。

ダイバーシティという考え方について、これからの企業運営について明るい未来を感じられる内容でした。ジェンダー、人種、民族、年齢といった大きなくくりだけでなく、自店の中でも、スタッフの個々の長所を生かした運営ができるように取り組みたいと思います。

ダイバーシティ、人種・障害のある方などという人がいても当たり前と思っていましたし、一人一人の個性を伸ばせる会社であってほしいと思います。

CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
アナリスト・投資家向けセミナー	1回	1回	8回	3回	2回	3回	2回	3回
企業・一般向けセミナー	1回	2回	3回	10回	7回	1回	3回	2回
大学での CSR 特別講義	0回	2回	11回	8回	9回	12回	9回	6回

※2018年9月現在



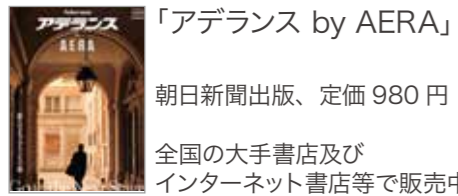
株式会社アデランス
人事部採用チーム

就職・転職志望者が共感・共鳴するCSR活動

新卒採用における会社説明会や中途採用時の求人広告では、CSR 活動の内容については必ず紹介するようにしています。事前にホームページ等で弊社を理解のうえ、説明会等にはお越しいただいていますが、TVCMで日常的に認知されている応募者にとって、CSRの活動実績の紹介は、経営理念とともに大きな就職・転職志望の動機付けのひとつになっています。中でも、社会・地域貢献としての「愛のチャリティ」や、お客様の安心・安全をカタチにした「病院内ヘアサロン」の展開。学術・文化活動としての「エンターテインメントウィッグ」の提供や、「フロンティア緑の森キャンペーン」での環境への取り組みは、高い共感・共鳴をいただいていると感じています。また、最近ではグローバル企業と認識いただけ、留学生を含む外国人の方々のご応募・採用実績もとても増えています。欧米～アジアにおける豊富なCSR活動に驚かれ、海外に目を向けている企業として強くご理解をいただけているとあらためて感じています。

書籍・雑誌

50周年記念オフィシャルブック 2018年3月に発売



「アデランス by AERA」

朝日新聞出版、定価 980 円

全国の手書店及び
インターネット書店等で販売中

創立50周年を記念し、オフィシャルブック「アデランス by AERA」が2018年3月1日に発売されました。ウィッグから育毛、毛髪研究、舞台芸術など、当社の幅広い事業を多角的に紹介しています。

講演など



CSRラジオ放送の開始 「笑顔のつながり」

当社のCSR活動を1人でも多くの人々に知っていただくことを目的に、FMラジオを通じたCSRラジオ「笑顔のつながり」を2018年9月より放送を開始しました。当社のCSR活動の考え方や4つの象徴的なCSR活動等をMCの浜菜みやこさんと共に紹介しています。



「おはようサンデー」
毎週日曜日 朝7時～8時55分
（「笑顔のつながり」は番組内8時30分～45分のコーナー）
全国のコミュニティFM放送局にて放送

温故知新に学ぶ経営哲学

「温故知新」という言葉があります。「古きを訪ねて新しきを知る」という意味ですが、『三方よしに学ぶ 人に好かれる会社』の書籍からは、売り手よし、買い手よし、世間よしの「三方よし」を経営に生かすことで、ステークホルダーの喜びをめざす経営に結びつくことが理解できます。また、『渋沢栄一に学ぶ「論語と算盤」の経営』からは、（論語）倫理と（算盤）利益の両立を学ぶことができます。世の中に迷惑をかけず、まっとうなビジネスを行って、積極的に売り上げや利益を確保しようということです。企業の不祥事が頻発する中、これらこそ現代の経営に必須の条件といえますが、本書の中ではアデランスがこうした活動を重要視していることが紹介されています。



「三方よしに学ぶ
人に好かれる会社」



「渋沢栄一に学ぶ
『論語と算盤』の経営」



株式会社アデランス 顧問
駿河台大学名誉教授
水尾 順一

目次

トップメッセージ	1	象徴的な活動	
		社会・地域貢献	5
特集		お客様の安心・安全	11
アデランスの50年	3	環境への取り組み	15
英国の名門レスター大学での	9	学術・文化活動	19
戦略的 CSR 講義		海外での取り組み	21
輝く女性への応援	14	ステークホルダー・ダイアログ	23
アデランスのCSR活動	17	CSR広報活動	25
過去・現在・未来		目次・編集方針 等	26

編集方針

「CSRコミュニケーションレポート2018」発行にあたり
今回は創立50周年という節目の年でもあり、創業から現在まで続く当社の歩みやCSR活動を振り返る内容の特集として掲載いたしました。CSR活動の領域は、日本だけでなく世界のグループ会社でも、継続的な取り組みとして広がり、事業活動とのコラボレーションが行われています。

当社は、本誌「CSRコミュニケーションレポート」を、社内外の皆様の声を取り入れながら、独自性を持った戦略的CSRをさらに進めていくための重要なツールと位置づけています。

お客様、取引先様、社員、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

CSR 重要課題

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格ISO26000が2010年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動（本紙「象徴的な活動」ページ）は、ISO26000の7つの中核主題に基づき分類しています。

組織統治	人権
労働慣行	環境
公正な事業慣行	消費者課題
コミュニティへの参画及び発展	

発行年月と次回発行予定

発行日:2018年9月
次回:2019年9月予定

企業情報に関して

商号:株式会社アデランス
(英文名称:Aderans Company Limited)
設立年月日:1969年(昭和44年)3月1日
資本金:12,944百万円

その他詳細は当社Webサイトをご覧ください。
<https://www.aderans.co.jp/corporate/company/>

報告書の対象期間と範囲

対象期間:2017年3月-2018年2月
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

企画・制作

株式会社アデランス グローバルCSR広報室
編集長 玉橋美咲
アドバイス・サポート:ツバルの森

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ情報をお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSRコミュニケーションレポート」「笑顔のために」の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。
<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>